



ラウンジ空間をイメージ すだれの圧巻の存在感



竹で装飾したエントランス



客室のモデルルーム



ホテル備品を販売するショップ

全国屈指の竹林面積を誇る福岡県八女地方は、良質で豊富な竹資源を背景に「竹工芸の里」と言われるほど竹工芸が盛んな地域である。その地で、明治四十五年に竹すだれメーカーとして創業した(株)鹿田産業(鹿田和正社長)は、創業百十年という節目の二〇二二年、新たなビジネスモデルの確立を目的として、本社敷地内に建築家・隈研吾氏が設計・デザインしたコントラクト向けショールーム『SHIKADASHI ITSURASHI ROOM』を開設した。

これまで同社では、神社仏閣向けの伝統的

な竹すだれに加えて、百貨店ルートを通じて竹すだれ、籐カーベツト、ムートンなどを一般ユーザー向けに販売、百貨店市場が隆盛の時期は大いに売上規模を拡大させてきた。

しかし時代とともに売上の八割以上を稼いでいた百貨店ルートは低迷、会社の業績も厳しい状況が続いていた。

そこで鹿田社長が就任前より徐々に進めてきたのがメーカーポジションへの転換だった。『百貨店で販売していても、『鹿田産業』というブランドは残りません。メーカーとしてブランドが残る仕事をしなければ生き残れないと考えました』約二十年前からは、自社開発のメカ機構を採用した竹すだれロールスクリーンを製品化、インテリア専門店ルートへの提案も強化してきた。また一時期は居酒屋の間仕切りにも数多く採用され、東京へ営業所を開設していた時期もあったという。

リーマンショックを経て、そうした需要が一巡してから、次の展開として鹿田社長が注目したのがコントラクト市場であった。

きっかけは隈研吾氏が手掛けたアメリカの高級レストランに鹿田

## 「すだれ」から「素材」へ 百十年企業が挑む ホテル・コントラクト市場への転換

隈研吾氏がデザインした「シェフナオコレストラ」(アメリカ・ポートランド)  
Photographs courtesy of Kengo Kuma and associates

隈研吾氏

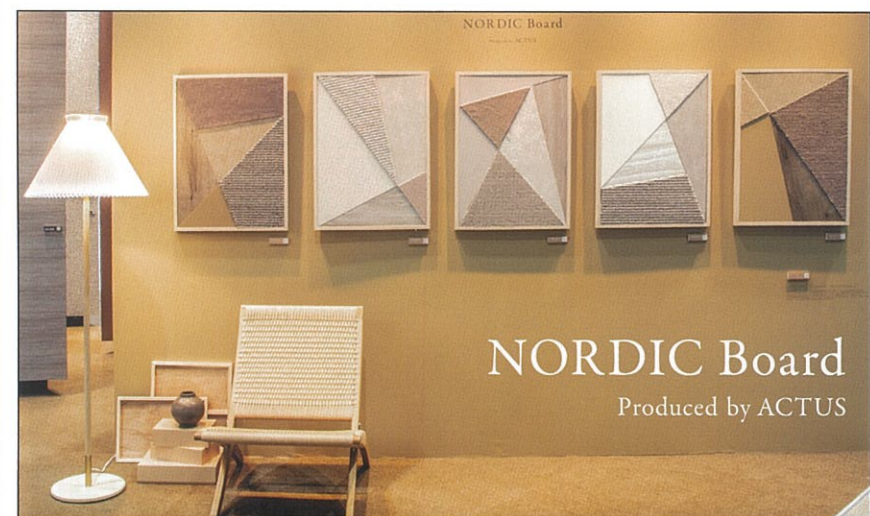
天井装飾が施されている。七メートルのすだれを十本組み合わせており、渦のごとく下から上に登っていくような、象徴的な空間演出となっている。

またすだれを壁装材としたホテル客室のモデルルームやラタン家具、ラタン編み生地など同社が取り扱う製品も並ぶ。さらにホテル備品で使える地元の竹工芸品を販売するショップも併設する。

「オープン以来、多くの建築家や設計事務所、デザイナーなどコントラクト関連の方々にご来場いただいています。隈研吾さんが設計・デザインした物件は、通常写真撮影はできませんが、ここでは取り放題です。デザイナーの参考にしていただいています。工場もオープンファクトリーツアーなどを受け入れていきます」

また竹すだれだけでなく、ホテルの内装でも取得、またSDGsの観点から竹素材への期待値も高く、市場の反応は上々という。

「竹編み生地の可能性はまだまだ広がると確信しています。受注生産、高付加価値、他の素材とのミックスという三つをキーワードに掲げ、長年培ってきた技術と生産体制を武器に今後チャレンジしていきます」と語る鹿田社長であった。



HOME 2023 ▶ 2026

心豊かな暮らしは、よりよい生活空間から生まれる。

2025-2028 FRESH

デザインと機能性。今の壁紙のすべてがここにある。

ルノン株式会社

東京都品川区西五反田2-30-4 BR五反田ビル6F

https://ssl.runon.co.jp

SUMINOE GROUP